

2021年度(令和3年度) 学校評価自己評価表

神辺中学校区	校番 80	福山市立道上小学校
	最終更新日	2022年(令和4年)2月1日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>○「子ども主体の学び」に向けて、子どもたちの発想や思いを尊重し、楽しく学習できるように取り組まれている。 ○様々な行事や活動を通して、子どもたちの自己肯定感・有用感が育まれている。「やってよかった」などの子どもたちの達成感を大切にしてください。 ●「学び」に対する具体的な「みとり」を大切に、今まで見えなかった「学び」の姿を見つけ、発信してください。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>○「子ども主体の学び」の授業で、自分で考える、友達と学び合う姿が定着し、楽しく授業を進める児童・生徒が増えてきた。 ●他者の意見のよさを取り入れたり、自分の考えとの違いをはっきりさせたりして、自分の考えの立場や内容の移り変わりを評価する力を高めていく必要がある。</p>	<p>育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>コミュニケーション 人としての思いやり</p> <p>自他の良さを認め合いながら、未来を切り開き、地域・社会に貢献する生徒</p> <p>○ 児童・生徒が、授業での学びを日常の様々な場面で活用し行動できるようになる。 ○ 児童・生徒が、自己肯定感・自己有用感を高める。 ○ 校種、教科・領域をこえた合同研修等を行う。</p>
---	--	--	---

III 自校

<p>ミッション</p> <p>社会に貢献できる人づくり</p>
<p>学校教育目標</p> <p>豊かな心をもち 共に高まり合う 子どもの育成</p>
<p>現状</p> <p><児童></p> <ul style="list-style-type: none"> ・習得した知識、技能を活用する力が十分ではない。 ・自己肯定感が低い児童が固定化している傾向にある。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題意識をもち、理解を深めたり、考えを広げたりする授業づくりが必要である。 ・児童の学習状況を把握し、個に応じた授業実践を行い、学力向上につなげる授業づくりが必要である。

育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”	自他の良さを認め合いながら、未来を切り開き、地域・社会に貢献する生徒					
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	
	めざす子ども像	①	感情や行動を律し、ルールやマナーを守ることができる。	時と場に応じた適切な言動を選択し、成長のために進んで学ぶことができる。	何事においても、目標設定ができ、自己の可能性を信じて主体的に挑戦することができる。	自己の言動に対する振り返りができ、適切に改善できる。
		②	他者の意見を聞き、自分の考えを伝えることができる。	他者の意見の相違を受け止め尊重することができる、協力・協同して参画できる。	意見の相違に対して代案を示すなどして合意形成し、積極的に社会(集団)を形成することができる。	自己の対人関係や社会(集団)とのかかわりに対する振り返りができ、適切に改善できる。
③		自分や他者を大切に思うことができ、親切にし、いたり、励まし、助け合い、協力し合うことができる。	多くの善意や支えに気づき、社会(集団)や自然の恵みに対して「ありがたい」と感じる事ができる。	他者や社会(集団)に対して、自分ができることを考え貢献できる。	他者や社会(集団)に対する自己の在り方を振り返り、適切に改善できる。	
研究	テーマ	主体的に学ぶ子どもの育成				
	内容等	「学び」を実感できる授業をめざして、学びを促す教師の役割を追究する				
めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> ◎主体的な課題設定の場がある。 ◎児童が自発的に質問をしたり、話し合っって考えを深めたりする場がある。 ◎児童自らが納得解を得ている。 ◎新たな学びに向かおうとしている。 					

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	70%以上 達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70%以上 達成 評価	総合 評価	改善方策		
2	子ども主体の 学びの授業を 実践する。	★	継 続	◎児童の学 びを進める ための役 割を理解 し、具体 的に実践 していく。	A 研究授業等 を通して、 児童の学 びを進める 具体的な 実践につ いて共有 する。 B 児童が自 らの学び について 実感して いる。	(1)研究授業公開以外に、職員 が学期に1回以上授業を見せ 合って研修を行っている。 (2)その研修の有用感を感じて いる教職員を90%以上にする。 (3)全児童が単元末に学びに ついて振り返ることができる。 (4)「学力の伸びを把握する調 査」において、全児童の伸び を達成する。 (5)各種学力調査と単元末テ ストにおいて、国・県の平均を 上回る。	(1)学期に1回以上授業 を見せ合っている学 級は、全体の78%で ある。 (2)研修に有用感を感じ ている教職員は全 体の100%である。 (3)児童が単元末 に学びについて振り 返ることができる 学級は、全体の8 3%である。 (4)学力の伸びが 確認できた児童は、 国語科では6年生5 7.3%、5年生47. 1%である。また、算 数科では、6年生7 7.5%、5年生70. 6%である。 (5)全国学力・学習 状況調査は全国平 均を上回ることが できなかった。 「学びの伸びを把握 する調査」は、3学 年2学年が市平均 を上回ることが できた。単元末 テストの平均 到達率は、国語 102%、算数 100% である。	3	2	◎児童の学びの姿 から授業改善を評 価し合う。 ◎学びの進め方な ど、児童の思考に 沿った授業づくり について職員で共 通理解をもつて取 り組む。 ◎授業の中で「自 分の考えをもつ」 「自分の考えを表 現する」時間を十 分に確保する。	(1)学期に1回以上 授業を見せ合っ ている学級は、全 体の81%である。 (2)研修に有用感 を感じている教 職員の割合は、100% である。 (3)児童が単元末 に学びについて振 り返ることができる 児童は、全 体の91.0%で ある。 (4)この指標は中 間評価同様 (5)単元末テスト の平均到達率は、 国語105%、算数 99%である。	3	3	3	◎社会の変化や児童 の実態・教職員の必要 感に合わせた研究テ ーマを設定し、研修の 充実を図る。 ◎職員間で授業を見 せ合う機会を増やす ことで、指導力向上や 共通認識を図る。 ◎児童の思考や学び の姿から、単元計画や 授業の進め方などの 改善を行う。
3	人と人とのか かわりを重視し た取組を進め る。	★	継 続	◎児童の自 己肯定感、自己 有用感を 高める。	C 学校教育活動 に、児童自らが 発想した取組 と協同的な活 動を積極的に 取り入れる。	(6) 自校アンケートの ①自分には良いところがある ②友達や家族や先生に「ありが とう」と言われたことがある について、肯定的回答の割合 を85%以上にする。 (7)共に活動した友達との間 で、肯定的相互評価が全 員できる。	(6) ①86.3% ②91.8% (7)95.8% この状況を大切 にして、取組をつ ないで、必要があ る。	3	4	◎本校の生徒指導 重点3項目に焦点 化した取組ととも に、(7)に係る実 感を伴う活動の 充実を図る。 ◎本校の教育活 動として、一体 化させる。	(6)①88.9% (2.6pt↑) 昨年度88.2% ②96.3% (4.5pt↑) 昨年度93/0% (7)96.7% (0.9pt↑) 昨年度95.5% ・全ての項目に おいて、前年度 の数値と比較し ても、上回って いる。	4	5	5	◎行事や学年単 位、異学年による 活動が、充分に行 い難いなか、児童 の自己肯定感、協 働的な意識は高ま っている。更に校 内の諸活動の工 夫を進め、高めて いく。

3	自己の健康と体力を高めるための取組を進める。	継続	<p>◎体育授業の充実や休けい時間の外遊び等の取組を通して、意欲的に運動に取り組む児童を増やすとともに、児童の体力向上を図る。</p>	<p>D 児童の状況を把握し、セット運動などの取組を創意工夫する。また、日常的な運動習慣を勧め、児童が意欲的に取り組めるようにする。</p> <p>E 体育授業時間や休けい時間での体力づくりの取組を行う。</p>	<p>(8)全児童が自己目標に取り組んでいる。</p> <p>(9)新体力テスト結果において県平均を上回る種目を12種目中7種目以上にしている。</p> <p>(10)自校アンケートの ①運動するのが楽しい ②友達と運動するのが楽しい の項目において、肯定的な回答の割合を85%以上にする。</p>	<p>(8)児童アンケート65.0% 全児童が自己目標を決め、運動ができるように、体力づくりの動画を作成し、家庭でも取り組むことができるように工夫した。</p> <p>(9)一昨年度の県平均と比べると、12種目中4種目県平均を超えている。</p> <p>(10) ①89.8% ②94.4% それぞれの項目で目標値を上回ることができている。</p>	3	3	<p>○新たな動画を配信し、より多くの児童が自己目標に向けて取り組むことができるようにする。</p> <p>○特定の種目の再測定を実施し、県平均を上回るように取り組む。</p> <p>○運動が好きだと思っている児童が多いことから、休けい時間における外遊びを推奨していく。</p>	<p>(8)全校で体力づくりに取り組みため、「体力アップカード」を作成し、休憩時間や体育の時間に目標に向けて、取り組めるように工夫した。 (9)今年度の測定結果は、12種目中3種目県平均を超えている。</p> <p>(10) ①88.1% ②93.5% それぞれの項目で目標値を上回ることができている。</p>	3	4	3	<p>○休憩時間や体育の時間など、学校で運動ができる時間に、引き続き全校で統一した体力づくりを続けていく。</p> <p>○「体力アップカード」の取組を生かし、再測定を実施する。</p> <p>○休憩時間に外で体力づくりができるよう工夫する。</p>
3	信頼される学校づくりのために組織的に取り組む。	継続	<p>◎情報発信を積極的に行う。</p> <p>◎業務改善に取り組む。</p>	<p>F 機をとらえ、分掌・担当等の主体的な動きを生かす。</p> <p>G 教職員の放課後の時間を確保し、教材研究や授業準備、打合せ等の時間にあてる。</p>	<p>(11)学校評価アンケートの ①HPや学校だより等で、学校の取組がよく分かる の項目において肯定的な回答を90%以上にする。</p> <p>(12)福山 100 NEN 教育アンケートの ①授業づくりを行う時間が確保できている の項目において80%以上、 ②仕事に意義とやりがいを感じている ③仕事の中で充実感を得られている の項目において肯定的な回答を95%以上にする。</p>	<p>(11) ①保護者アンケート肯定的評価93.0% 定期的に発行ができています。 メール配信による積極的な情報発信を行うことができています。</p> <p>(12) ①授業づくりを行う時間が確保できている。 肯定的回答 66.7% ②仕事に意義とやりがいを感じている。 肯定的回答 95.3% ③仕事の中で充実感を得られている。 肯定的回答 76.2%</p>	4	4	<p>○学校便り等を定期的に発行する。</p> <p>○HPのトピックス等を積極的に更新する。</p> <p>○校内掲示物の充実を図る。</p> <p>○適切な勤務管理を行う。 ・定時退校日の設定 ・入退校記録の適正管理</p> <p>○教職員の授業づくりにあてる時間を積極的に確保する。 ・特別時程週間の設定 (※12月・3月)</p> <p>○ 職員の心身の状況についての積極的に把握する。</p>	<p>(11) ①保護者アンケート肯定的評価93.0% 定期的に発行ができています。 メール配信による積極的な情報発信を行うことができています。</p> <p>(12) ①授業づくりを行う時間が確保できている。 肯定的回答 80.0% ②仕事に意義とやりがいを感じている。 肯定的回答 100% ③仕事の中で充実感を得られている。 肯定的回答 96.0%</p>	4	4	4	<p>○分掌や担当等の主体的な取組をもとに学校経営への参画意識を高める。</p> <p>○保護者や地域のニーズに応じた情報を積極的に発信する。</p> <p>○適切な勤務管理を行う。 ・定時退校日の設定 ・入退校記録の適正管理</p> <p>○教職員の授業づくりにあてる時間を積極的に確保する。 ・会議、行事の精選</p> <p>○職場の同僚性を生かす。</p>

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。